

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101374		
法人名	医療法人 誠仁会 吉徳医院		
事業所名	ぐるーぷほーむ 木ー Aユニット		
所在地	滋賀県大津市里五丁目2-60		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570101374&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成22年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 職員は常に、基本理念を目標に日々、悩みながらより良いケアを目指して真摯な態度で業務に当たっていること。 ② 施設的な環境をできる限り排除し、その上で身体拘束絶対禁止していること。 ③ 丁寧な対応、丁寧な言葉遣いの徹底。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>吉徳病院を核にデイケア、デイサービス、ショートステイ、グループホームが同じ敷地にあり連携の強みをサービスに活かしている。人材の育成に力を入れ能力と意欲の高い職員がゆとりのある環境の中でレベルの高いケアをしている。運営方針の1つ「生涯、社会性を失うことなく豊かな生活環境と人間関係の構築を支援する」を目標に個別の願望にも応えるよう努めている。その結果利用者が全員であるいは個人やグループで外食や買物や行楽などで出かけることが多い。職員の親身の対応と丁寧な言葉遣いは徹底している。食事は敷地内にある厨房から保温保冷庫でグループホームに運ばれてくるので、食事の準備や後片付けに職員が時間を取られることなく利用者に寄り添う時間の余裕を生み出している。利用者が食事作りへ関与する楽しみは行事食やおやつ作りなどの機会を設けている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は基本理念に則り、ご利用者が地域や社会から隔離されることの無いよう、個々に応じた社会参加を支援している。	理念と運営方針は誠仁会のものであるが、特に木一を意識してつくったものである。「生涯社会性を失うことなく…」、これに沿って利用者の願望を受け入れながら今迄の暮らしが続けられるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的条件や利用者の状況を考えると限界はある。地域行事への招待参加やボランティアの訪問、保育園、中学校との繋がりはある。	田上保育園児のマーチングバンドやナツメロコーラスグループの演奏を楽しんだ。田上中学校の生徒が職業体験学習を受け入れた。自治会の入会はかなわず地域との組織的なつながりは十分ではない。	地域の行事に参加するなどさらに色々な面での利用者と地域の繋がりを深める工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価に対して、ご家族からの意見を頂く機会となり、実際に業務や個々のケアに生かせることがある。また、ご家族も協力下さることも多くなったと感じている。	年6回開催している。参加者は家族、地域包括支援センター、ナルク、職員、研修生である。活動報告、ターミナルケア、個別ケア、健康、事業所運営課題について話し合い、資料とともに議事録に残している。	自治会代表や民生委員にも参加を要請して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて相談や連絡を取ることは心掛けている。	市職員の運営推進会議への出席やスプリングラーの設置等について相談してきた。運営推進会議に包括支援センターの出席が実現している。	上記の件に関して地域包括支援センターに力添えを依頼するのが望ましい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全事業所で拘束を禁止している。	職員は拘束の弊害について十分に理解していて、すべての局面で見守りを基本にしている。玄関や居間の入り口に施錠はなく出入りは自由である。車椅子に乗せたままにすることも拘束と考えやむを得ない移動の時だけ使っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修も行い、職員も事業所内外での虐待に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等を先にお渡しし目を通して頂き、後日、事例も踏まえて説明させて頂くことで理解・納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では勿論のこと、日常的に要望や意見を頂けるよう、ご本人やご家族等への問いかけは欠かさず行っている。	家族訪問は多くその時に要望意見を聞き取るようにしている。家族会は年2回開催で、運営推進会議でも家族の意見は活発に出ている。意見にはその場で結論を出し、即答できないものでも方向を示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低、月に1回の会議で管理者、職員は日々の業務やケアに対して意見交換等を行い、迅速な回答、対応ができるよう努めている。	職員とリーダーや管理者はいつでもお互いに遠慮なくものが言える関係にある。定例の会議は月1回でこの場で議論している。介護日誌を基に日々のケアの状況報告や提案をし、より良いケアを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境等の条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得、そのための研修参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表者として協力・支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集に努め、ご本人に合った生活支援の方法等を吟味した上で、不安軽減と信頼関係の構築を図る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お互いに率直な意見交換のできる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人他事業所も含め状況にあったサービスにより適切な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と協同して生活し、身近な人間として喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力無しには、ご本人の望まれる生活を支援することは難しいと考えており、色々と相談しご協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所は、そのような連絡・訪問を積極的に受け入れることとし、ご家族にも協力を頂くことで支援に努めている。	家族や知人の面会が多い。かかりつけ医を受診したり、行きつけの美容院へカットに出かけている。その場合職員が送迎を支援している。実家や故郷を訪れる支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った方同士での外出や活動の機会、環境の設定やコミュニケーションの円滑化を図る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的な連絡を心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの要望には勿論のこと、困難な場合にもその行動や生活歴、ご家族等からの情報収集により推測、検討し実践できるよう努めている。ご家族に協力頂き実践できることも多い。	職員は寄り添う時間を多く持つことで意向の把握に努めている。めだかを飼ったり自室でコーヒーを入れたり個々の願望に応じて。希望による外出支援も多く、クラブ活動で好きな俳句、習字や手芸をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前(認知症発症以前も含め)の情報収集は常に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者と過ごす時間を多く持ち、日々の心身状態を把握することに努め、即対応を可能にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議、ミーティングでは、状態の変化や課題等について話し合い、ご家族の意見も踏まえ、ご本人の意に添えるようなプラン策定を心掛けている。	利用者、家族、かかりつけ医、主治医の意見を聞いて会議で検討の上管理者が作成している。状況に変化がない場合も3カ月毎に確認し、年1回は全面的に見直している。変化があった時は都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人他事業所との連携により支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性があれば積極的に利用したい。 現在、対象者はいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内に併設診療所あり。	専門医やかかりつけ医への受診は送迎や付き添いの支援をしている。家族に任せる場合もある。日常の健康管理をするのは吉徳病院であるが従来のかかりつけ医を受診する利用者は多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りも行っており、連携は密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設診療所と病院の(病診連携システム)によりスムーズに行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には個々に方針を相談し、運営推進会議の場でも話し合う機会を持っている。	基本的には最後まで看取る方針である。入居の際に個々の希望を聞いて利用者、家族と相談し、看取りについての話し合いをしている。グループホームでの葬儀を今年8月を含め過去2回行った。	終末期の対応方針を契約書または重要事項説明書に明記して説明する事が望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度の研修や、現状を踏まえた対応、処置等の確認をその都度行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修会、訓練を行っている。地域との協力・連携体制強化が望まれる。	最近スプリンクラーを設置した。夜間の火災マニュアルを作成し消防署立会いで避難訓練を行った。隣接するショートステイ夜勤者に連絡し自動通報システムで近隣職員を召集した。夜間5分以内に来る事が可能な職員が約10名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の対応、プライバシーに配慮した環境の提供は常に注意している。	職員は利用者を尊敬し丁寧に話しかけている。利用者は若い職員が知らない昔の出来事などを話して聞かせたり、教えたりしている。個人情報を含む介護記録などは事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを汲み取ることを重視したケアを心掛け対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のみでは応じきれない要望にも、ご家族の協力により実践できることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類の購入、理美容等、ご本人の好みや楽しみとして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のおやつ、旬の食材、好物や個々の要望に応じて随時の調理、購入、外食等の支援を行い、能力に応じて共に作業することを心掛けている。	利用者は配膳や後片づけを手伝う。職員と一緒に食べたり介助をしている。食後のコーヒーは利用者が入れて好みの味にしている。おやつは利用者も参加して作る。配食を断り、焼きそばや行事食など一緒に作ったり、月に1～2回は外食を楽しむ事がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員、栄養士による栄養管理、水分摂取量の把握は徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア施行。状態観察、歯科受診の必要性の有無についても注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし定時、随時の誘導にて自立に向けたケアを考えている。	排泄習慣を詳しく把握し頃合いを見計らい手を添えトイレへ案内している。自立のため夜間はなるべくおむつの使用を止め綿/パンツにパットにしている。おむつの使用が減ったが夜間のみ使用している利用者が数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、乳製品、運動量等考えケアに当たっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1でのゆったりとした対応ができる。時間帯については希望に添い切れているとは言えない。	入浴は基本は毎日であるが気分や体調により2日に1回になる事もある。好きな時間に入浴している。すべての利用者に職員が付き添って1対1で入浴を楽しんでいる。8名の難しい人も敢えて機械浴にせず2名介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	其々の生活リズムを創りだし、体調やその日の状態に応じて休息、睡眠を取っていただく配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が定期薬から頓服薬まで服薬情報の確認を行い管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、手芸、音楽、ペットの世話、飲酒等の経験や特技、嗜好を活かし継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出(食事、観光、買い物)は、好みに合わせて、気分転換や楽しみに繋がる支援を目指している。	広い敷地内は自由に散策できるが利用者が高齢化したので外部に散歩に出る人はいない。菜の花畑や花見のドライブ、近隣のショッピングセンターへの買い物、外食等で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身の回りの細かな物やおやつ、理美容代等少額の金銭管理は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時候の便りを心掛け、趣味活動の一環として取り入れ、電話連絡は日常的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは多く、空間も広く取り閉塞感のないよう装飾品、家具にも配慮している。	全ての共有空間は広くゆとりがある。食堂は居間と別室でテーブルは3か所に分かれ利用者の数より多くの席を用意して家族も利用者と一緒に食事ができる。広い庭にはあずま屋、ベンチ、炉などの設備があり、体操や戸外の食事などに活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは多く、状況に応じて個人、グループ、家族として過ごすことができるよう環境設備を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具、(TV、冷蔵庫、ポット等)や家具をお持ち頂くことを基本とし自室での居心地にも配慮している。	居室は広く専用のベランダに出る事ができる。冷蔵庫、ポット、コーヒーメーカー、机を持ち込んでいる。めだかを飼っている利用者やテレビゲームを持ちこんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	WC・洗面所は居室から近く、次にキッチン・ダイニング、リビング等、自立に向け環境設定して居り、見守りの徹底により、危険だから排除するというののないよう、普通の生活を支援している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (13)	緊急災害時を想定した安全確保のための取り組みを強化する必要がある。	常に緊急時の対応を念頭に置いた上で、日常業務に当たることができる。 その際には、地域の協力を得ることができる。	訓練等を法人事業所全体で行うだけでなく、木一単独にて実施する。 訓練は勿論、研修会、会議でテーマとして話し合う機会を増やす。 地域との連携体制強化を積極的に進める。	12ヶ月
2	49 (18)	集団での外出、活動等は実施できているが、日常的な個人の希望や要望、潜在的なニーズに応えきれてはいない。	個別なニーズを考慮した効果的なコミュニケーション、活動、外出を行うことができる。	個別ケア計画を立て、担当者を中心に実践する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。